小島地区ふれあいセンターだより

令和7年3月 第417号　運営委員会発行

愛宕3丁目10－2　電話826－7703

３月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
４日（火）	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
５日（水）	すこやか運動教室（生涯元気事業）	午前10時～12時
７日（金）	子育て教室	午前10時～11時30分
１１日（火）	小島中学校区青少年育成協議会	
１２日（水）	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
１６日（日）	２０２５迎春コンサート（シルバー・アックス）	午後　２時～
１９日（水）	すこやか運動教室（生涯元気事業）	午前10時～12時
２２日（土）	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～
２５日（火）	小島地区連合自治会連絡会議	

「ひな祭り」について

ひな祭りの起源は平安時代に中国から伝わったとされる「流し雛」です。

ひな祭りの３月３日は五節句のひとつである「上巳の節句」にあたり邪気祓いのための禊（みそぎ）を行う節目でしたが、自分に見立てて作った人形を川に流し、自分自身の災厄を清める風習がありました。また、当時の日本では貴族子女の間で「ひいな遊び」というおままごとが流行していたため、流し雛と合わさって現在のひな祭りになったのが由来とされています。「小島地区ふれあいセンター」では、２月上旬から桃の節句まで１階ロビーに、ひな壇を飾っています。

又、「小島地区ふれあいセンター」では、２月７日（金）に、小島地区「子育て教室」が開催されました。この日の取り組みは、「おひな様を作ろう」でした。

参加した皆さんは、おひな様かざり作りを楽しみました。

長崎〝てくてく〟町あるき　83　MK生

「今と昔の長崎発見」③

※明治12年(1879)6月、米国大統領グラント将軍が長崎を訪問しました。

・宿舎確保に苦労した県令(県知事)は迎賓館の必要を痛感し、翌年県費1,996円を投じて「長崎県議事院兼外賓接待所」としての「交親館」(沪粕町)が建設されました。

「議事院」は明治15年(1882)に第5回の県会から明治44年まで使われました。

「外賓接待所」は明治32年(1899)条約改正で居留地が廃止されたことに伴い迎賓館としての役割を終えました。

⑦三代目県庁舎

・明治44年(1911)5月25日、本館、県会議事院ともに落成しています。

・ルネッサンス様式の鉄骨石壁で、屋根は銅板葺き。

風格のある重厚で壮麗を極めた純英国式建築でした。設計は山田七五郎。

・敷地面積2630坪、総面積1670坪(約5,511㎡)。工費55万7500円。

県庁舎本館は3階建、県会議事院は2階建、本館と同じ建築様式で建面積435坪(1,436㎡)。・・・各面積は史料により若干の差異があり参考として記載しました。

※同年5月15日に新庁舎落成式が盛大に挙行され、それに併せ16日から3日間一般の観覧に供すると共に、物産・史料・衛生の各博覧会が開かれ、九州各県はもとより全国各地から多数の人々が観覧・見学のために列席し盛況を博したといわれています。

・この県庁舎は残念ながら昭和20年8月9日、建築後僅か34年で長崎原爆により火災が発生し焼失してしまいました。

⑧四代目県庁舎

・この場での最後の県庁舎です。昭和26年(1951)2月20日起工。

昭和28年(1953)3月31日完成。鉄筋コンクリート、一部鉄骨鉄筋コンクリート造り5階建て、総面積14,500㎡。

高さ39mの塔からはチャイムベルの平和の調べが時刻を告げました。

・この庁舎は、県議会議場と県庁舎が一つの建物として造られており、三代目の庁舎のような独立した議事院の建設は行なわれませんでした。

平成30年(2018)1月に、現在の新庁舎(尾上町)へ移転するまで65年間使用されました。

長崎〝てくてく〟町あるき　84　MK生

●ここで長崎の町の統治機構について見てみます。

○長崎奉行

・長崎奉行については、「81」で若干触れましたが、もう少し詳しくここに述べてみます。

・豊臣秀吉は天正16年(1588)長崎、茂木村、浦上村を直轄地とし、肥前佐賀城主　鍋島直茂を長崎代官(初代)としました。文禄元年(1592)に初代長崎奉行として寺沢志摩守広高(肥前唐津城主)が任命されました。

・慶長8年(1603)徳川家康が征夷大将軍となり、江戸幕府が成立しました。長崎を直轄地(天領)として、旗本小笠原一庵を長崎奉行に任命しました。

・当初長崎奉行は1人制で、常時長崎に駐在せず、ポルトガル船の貿易時期だけ長崎に居り、帰帆した後は(10月頃)江戸へ戻るという勤務体制でした。　寛永10年(1633)七代目奉行　竹中采女正重義(豊後府内(大分県)城主)が悪政と汚職により職を解かれ息子と共に江戸で切腹、以後長崎奉行の改革を行い、奉行2人制とした。

・寛永14年(1637)島原の乱が起こると、長崎警備の重要性を痛感し、寛永15年(1638)から長崎奉行を老中直属とし、長崎に常駐させることとしました。一人は、江戸詰(在府)、あと一人は長崎詰(在勤)とし、一年ごとに交代する制度となりました。

・鎖国体制後の長崎奉行の任務は、長崎の治安維持、外国貿易の監督、キリシタンの取り締まり、長崎港の防備などでした。長崎警備は、福岡(黒田藩)、佐賀(鍋島藩)の二藩により交代で警備が担当され、長崎港内外に遠見番、烽火台、番所、台場などの設備が設置されました。

・貞享3年(1686)には3人制(一人は在府、二人は在勤)、元禄12年(1699)には4人制(二人は在府、二人は在勤)となったが、正徳4年(1714)以降は、目付けが設けられた為、再び2人制となった。延享3年(1746)から貿易監察のため、一時、勘定奉行が兼任しました。

○長崎奉行の直属の役人

・寛永5年(1665)以降、与力が5人から10人に、同心が20人から30人体制となる。一年交代で、江戸と長崎の間を往復した。

・貞享4年(1687)長崎奉行の与力、同心制度が廃止。奉行抱えの給人10人、下役30人となる。天保13年(1842)奉行所の機能充実の為、与力10人、同心15人となる。

長崎雑話（8）　竹方其

かるたとり（六）

百番歌は「承久の乱」の5年前に詠まれた順徳院の天皇在位中の歌である。宮中の建物が古くなっているだけでなく、荒れ果ててしまった。みんなで築いてきた社会も崩壊し、土地も建物も荒れ放題、そんな宮中を眺めながら、いくら忍んでも忍びきれない、古き良き時代のこと、昔から続いた平和で雅な世の中を、彼らは真剣に取り戻そうと努力したけれど時代は音を立てて崩れてゆく嘆きを詠っています。

天智天皇と持統天皇に始まった「百人一首」は、後鳥羽院と順徳院の御製で終わります。日本の国づくりを始められたお二人の天皇に始まり、「承久の乱」で配流されたお二人の上皇で終わる撰者　藤原定家の素晴しい演出であろう。

「百人一首」の解釈は従来から行なわれ、それなりに正しいのだが、和歌は「察する文化」であるので、その歌に「隠されている」真意を探らなければ見えてこない。

人は現在の自分を取り巻いている環境の中で生きているのではない。過去に生きた先人たちの歴史の中に目を向けていくと、おのずと自分の立つ位置が見えてくるのではなかろうか。

こんな素晴らしい文学作品を遊びとして取り組んでいた日本人、今の私たちは、その意味を理解することなく、遊びとして、かるた札とりゲームとして扱っている。

それはそれでいいのではあるが、歌の意味なども教えていくのも大切ではなかろうか。(以上で「長崎雑話」を終了します)

ふれあい俳壇

寒鯉の鰭(ひれ)ゆるゆると神の池　永福倫子

そこここに備忘録あり冬ぬくし　許斐洋子

日溜りに仄(ほの)と匂へる黄水仙　園田洋子

干拓地雀隠(すずめがく)れの麦の畝(うね)　立木由比浪

裸木の空を広げて露天の湯　田中怜子

干支の巳寒九(かんく)の雨に濡るる絵馬　田原より子

詣づるに寒九の雨となりて吉　辻原晩夏

彦山にかかる雲なし初詣　朝長美智子

神鶏ら冬籠りめく縁の隅　並川友子

岩穿(うが)つ地蔵二体や野水仙　籏先四十三

御鎮座は四百年の春迎ふ　松永美記子

長崎は詩歌の山河風光る　村川雅代

大寒の水を加へて証書漉(す)く　山本松子

※ふれあい俳壇は、小島地区ふれあいセンターで活動されているグループ(若芽の会・湾長崎支部岬会)の皆さんの作品です。

〈新着図書のご案内〉

	書　　籍　　名	著　者　名	出　版　社
一般図書	ごんげん長屋つれづれ帖　２、３、４、７、９	金子　成人	双葉社
	曲亭の家	西條　奈加	角川春樹事務所
	旅立ち佐平次	小杉　健治	角川春樹事務所
	夢追い門出	小杉　健治	角川春樹事務所
	海より深し	岡本　さとる	祥伝社
	もうひとつの引退馬伝説	引退馬取材班	マイクロマガジン社
	広島　宮島	―	JTB パブリッシング
	今日も異文化の壁と闘ってます	千葉　祐大	三笠書房
	ナチュラルかわいい手編みのこもの	USAGI※GOYA	産業編集センター
	皇后は闘うことにした	林　真理子	文藝春秋
	マリアを選べ	睦月　準也	早川書房
	男泣き川	稲葉　稔	光文社
	まち	小野寺　史宜	祥伝社
	天神小五郎人情剣	辻堂　魁	角川春樹事務所
	神やせ掛け算ダイエット	石本　哲郎	KADOKAWA
	「伝える」極意	草野　仁	SB クリエイティブ
	60 歳の迎え方	河野　純子	KADOKAWA
	メロディアス	阿泉　来堂	光文社
	ゲーテはすべてを言った	鈴木　結生	朝日新聞出版
	気の毒ばたらき	宮部　みゆき	PHP 研究所
	らくがき英語フレーズ	Ｒｉｋａ	KADOKAWA
	発酵野菜みそのレジピ	木村　幸子	WAVE 出版
児童図書	知ると楽しい！パンのすべて	「パンのすべて」編集部	メイツユニバーサル
	ゆきのこえ	おーなり　由子	講談社
	日本全国鉄道旅行	―	昭文社
	ムーミントロールとムーミンやしきのひみつ	トーベ・ヤンソン	徳間書店